

北海道教育委員会 2023 年度前期道民カレッジ連携講座（教養コース）
北海道総合地質学研究センター 第 11 回公開講座（2023 年 7 月 1 日）
後援 札幌市 札幌市教育委員会



地質学的に見た手稲山と、 その周辺の山々の形成史



手稲山とその周辺の山々の遠景

北の都「札幌」のランド・マーク的存在であり、また、札幌の屋根とも称されて市民に広く親しまれてもいる手稲山。そしてその西部に連なる山々は、いつ、どのようにして形成されたのでしょうか。本講座では、手稲山を始めとして、その西部から小樽方面に連なる山々の形成史の謎に迫ります。

日時/ 7 月 1 日（土曜日）、 13:30-15:30（13:15 開場予定）会場/かでの 2・7
1050 会議室

北海道立道民活動センター（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）

講師/松田 義章（北海道総合地質学研究センター 研究員，理事）

北海道小樽市出身，北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程単位取得満期退学

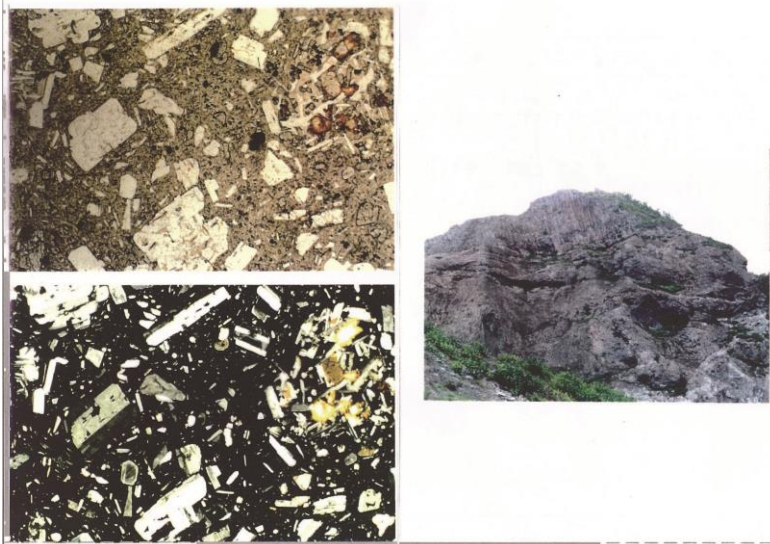
参加費/1,000 円（高校生は半額） 参加定員/40 名申込期限/2023 年 6 月 29 日（参加人数に余裕があれば前日まで受け付けます）参加申込・問合せ先/E-mail: office@hrcg.jp

Tel: 080-5830-2016

主催/特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター（<http://www.hrcg.jp/>）

（申込まれた方の個人情報は当センターのプライバシーポリシーに従い、適正に管理いたします）

1. はじめに：手稲山とその周辺地域の地質学的位置付け
2. 手稲山形成の歴史：手稲山とその周辺地域の地形や地質は、いつ、どのようにして形成されたのか
 - (1)手稲山とその周辺地域の地質と岩石
 - (2)手稲山形成の前史～手稲山の形成は海底火山活動から始まった？
 - (3)手稲山形成の本史～手稲山火山の陸上での溶岩の流出と手稲山(本体)という盾状火山(平坦面溶岩)の形成
 - (4)手稲山形成の後史～手稲山火山の山体崩壊、大規模地すべりの発生、および氷期における周氷河地形/山麓緩斜面堆積物の形成等、現在の手稲山とその周辺地域の現地形の形成
3. まとめ：手稲山形成史研究の現状と課題



手稲山を構成する溶岩の産状とその顕微鏡的性質、および手稲山の下部を構成する海底火山噴出物

講師プロフィール

松田 義章（まつだ よしあき） 北海道総合地質学研究センター 研究員，理事

1953年 北海道小樽市生まれ北海道小樽潮陵高等学校卒業．北海道大学大学院地球環境科学研究科博士（後期）課程単位取得満期退学．

当初、小樽市で中学校理科教諭を務めた後、北海道立理科教育センター（現北海道立教育研究所附属理科教育センター）地質研究室研究員，同地質研究室長を歴任．その後、札幌の道立高校の地学教諭を務めた．

この間、国立教育研究所科学教育研究センター共同研究員，文部科学省・学習指導要領（理科）作成委員，北海道立地質研究所研究員（嘱託）を兼務．

現在、北海道総合地質学研究センター 研究員・理事．小樽商科大学非常勤講師．

専門は広義の地質学（地域地質学）で、札幌市～小樽市～積丹半島の地質の研究、特に約 1,000 万年前に展開した海底火山活動の噴出物の産状の研究や当時の海底火山のモデル形成の研究、手稲山や小樽の天狗山等の平坦面溶岩火山の時空変遷史等や北海道の地質学史や石材の文化地質学等の研究に従事．